

## 第82回 初等中等教育と高等教育の接続段階における 学習到達度測定のあるり方についての研究

1. 受験勉強中心の学習スタイルから、「自らの興味関心、将来の目標に向けて学ぶ」学習者中心となる学習スタイルへ
2. 入学者選抜構造の変化～推薦・AOの増加
3. 初等中等教育と高等教育の間に存在する「溝(ギャズム)」  
＝「質的な違い」
4. ミニマム・リクワイヤメントとアドミッション・ポリシーの関係
5. 高校と大学が相互に歩みよりながら、適切な高大接続を  
→「Can-do」リストの開発
6. 今後の課題 ～ IDをベースにした実践研究へ

# 学習者中心の学習スタイル

- 学習者中心の教育 (student-centered learning) とは、  
「従来の、学習者のニーズ・個人差を無視して画一化した教育を実施する、という教育方式から、個々人のニーズ・能力・嗜好・スタイルに合った学習環境を提供する」  
という考え方。

(出典: 青木久美子(2005) 学習スタイルの概念と理論-欧米の研究から学ぶ, メディア教育研究 2, 197-212  
<http://www.code.ouj.ac.jp/wp-content/uploads/No.3-18kenkyutenbou01.pdf>)

- 立命館の学園ビジョンR2020における柱の一つ。

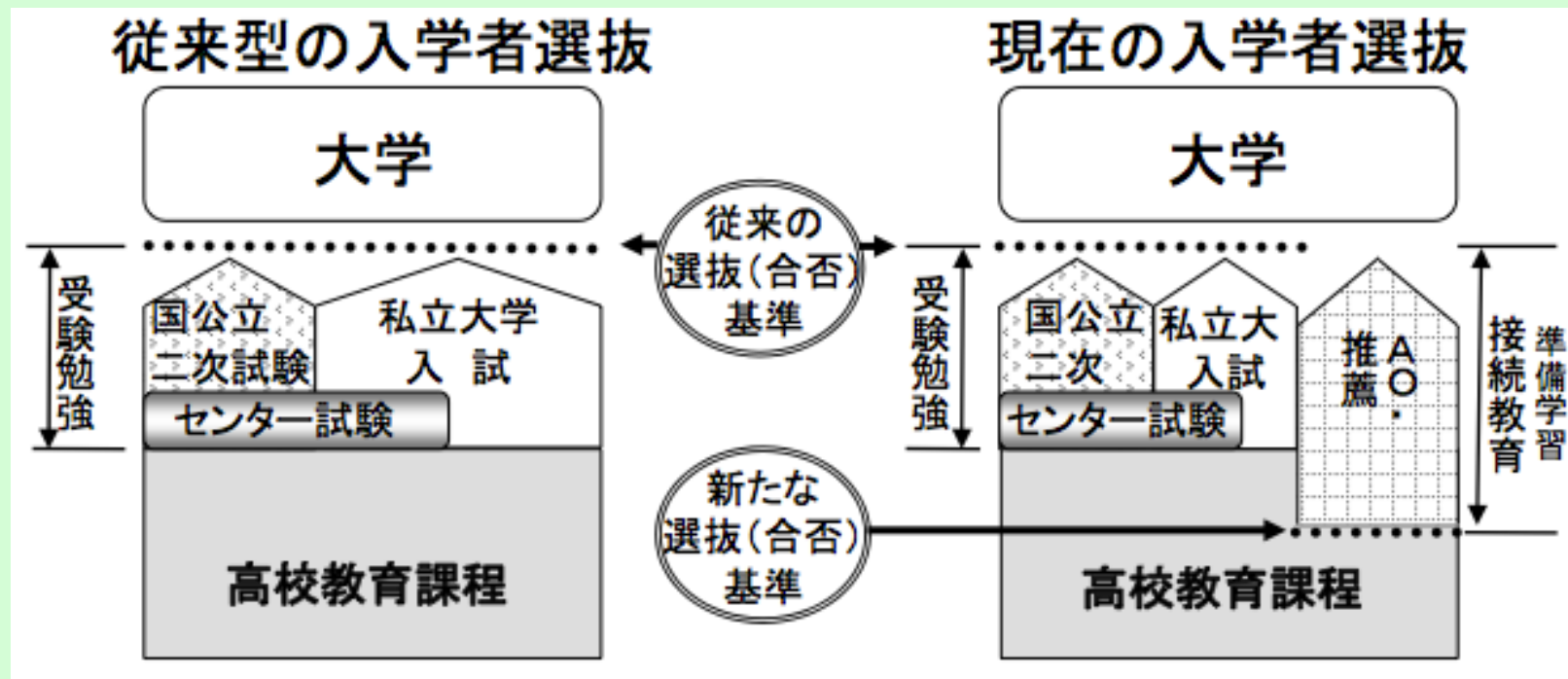
## 多様なコミュニティにおける主体的な学びの展開

立命館学園は、知識の伝達という学びのスタイルにとらわれず、学習者がより主体的に学び・成長することのできる場になるために、年齢、分野、国籍をはじめとする様々な Border を超えて、ともに高めあうことのできる学習者中心のコミュニティづくりを進めます。立命館学園は、ここで学ぶ人たちが自らの力で課題を見出し、その解決方法を考え、それを社会の様々な人たちとともに語らい・実行する人になることを、新しい教育の目標とし、その実現をめざします。

(出典: 立命館学園ビジョン2020 [http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/so-ki/vision\\_r2020/pdf/r2020-final.pdf](http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/so-ki/vision_r2020/pdf/r2020-final.pdf))

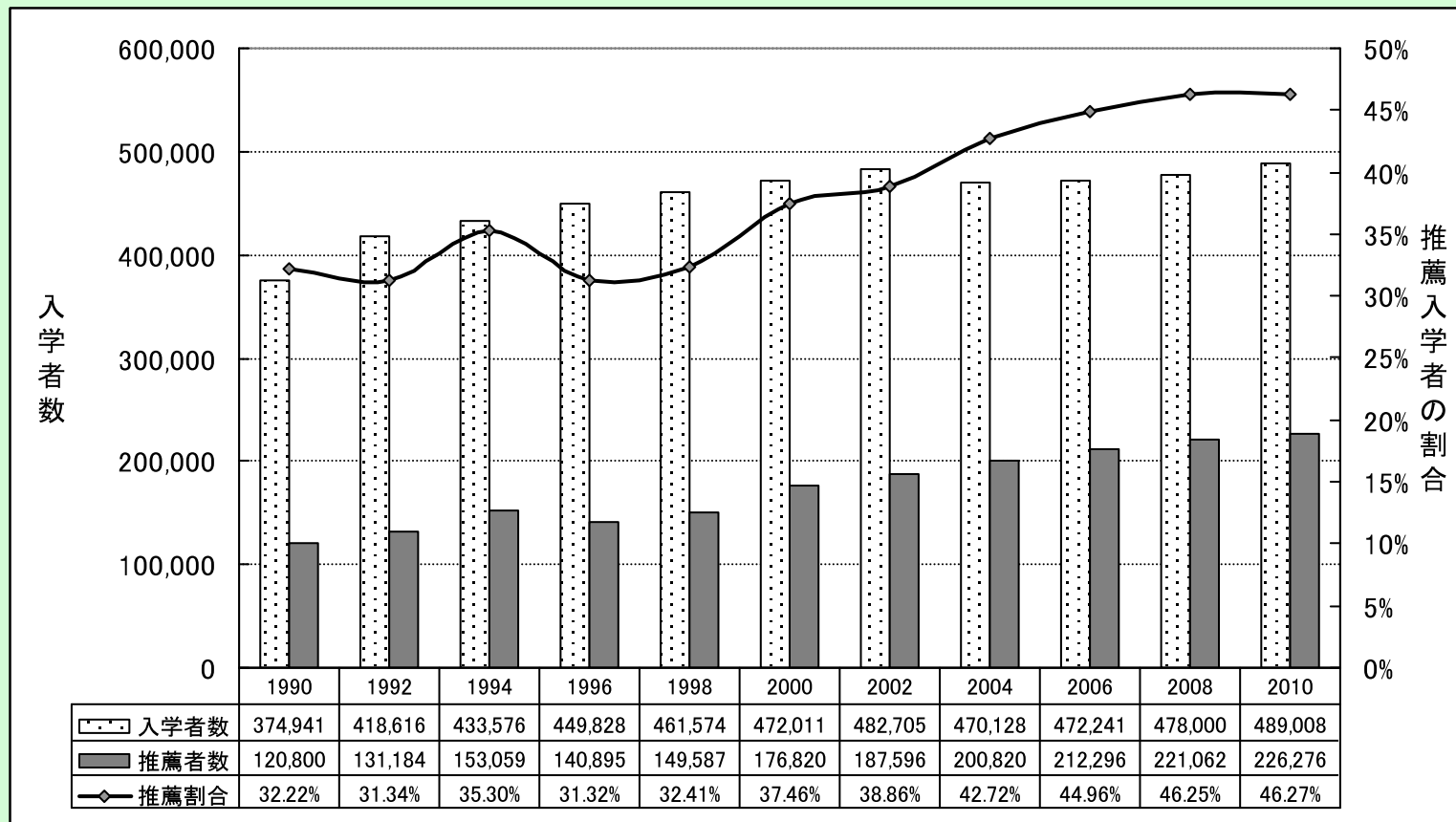
# 入学者選抜構造の変化

「競争選抜の時代」から「競争緩和の時代」へ(荒井 2010)



出典 荒井克弘「新たな大学入学者選抜の構想」発表要旨(2010)をもとに筆者にて再構成  
「これからの大学入学者選抜の意味を問い直す」シンポジウム, 2010年6月19日開催  
[http://www.asahi.com/edu/sympo2010/2010\\_04.html](http://www.asahi.com/edu/sympo2010/2010_04.html)

# 推薦・AOの増加



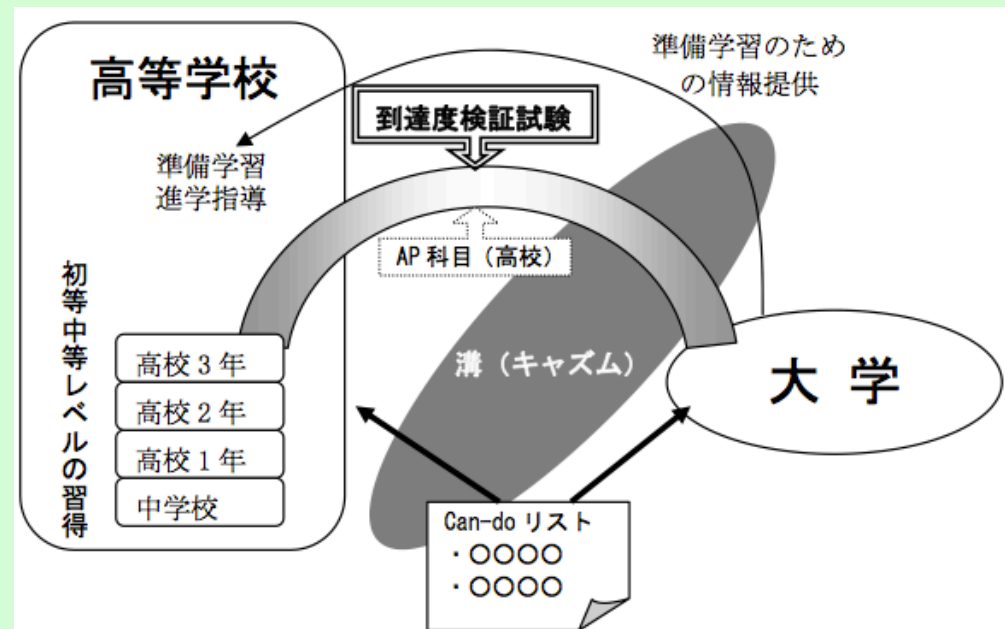
私立大学入学者数のうち推薦入学者の割合

(出典: 日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター「平成22(2010)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」(2010))

# 溝(ギャズム) = 質的な違い

中等教育段階の学習とは、教室で一斉に受講し、教師に与えられた課題をこなす形式であるのに対し、高等教育段階の学習とは、能動的・主体的に自ら課題を発見し、学修に向かうことで知識を創る形式である。

・・・溝(ギャズム)  
= 質の違い



荒井克弘・橋本昭彦(編著)、「高校と大学の接続 入試選抜から教育接続へ」,玉川大学出版部,2005  
「高校と大学の接続テーマに関する概念図」をもとに筆者で再構成

# 「Can-doリスト」の開発

- 何ができるようになったらよいのか。
- 学習到達目標としての「Can-do」リスト開発
- 現在は英語

(高校1年～3年)

Reading

Listening

Writing

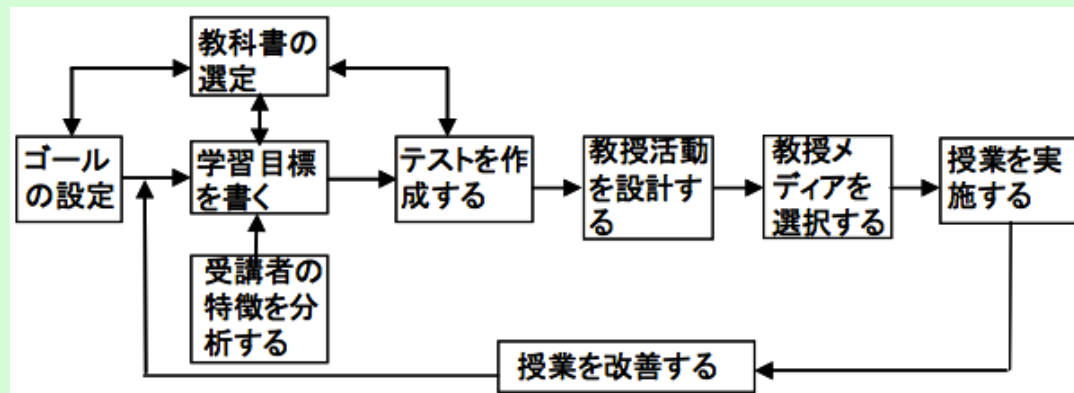
Speaking

Learning Strategies

Reading	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 身近な話題から比較的社会性の高い時事問題など、さまざまな話題に関する 600 語程度の文章を 80 ワード/分程度の速度で読み、その概要、および事実情報を正確に理解し、読み取った情報に基づいて推論することができる。</li> <li>各文の内容に関する英語による質問を聞いて/読んで、文章中の適切な語句を用いて口頭で答えることができる。</li> <li>• 素材テキストを読み、主要な登場人物、明確に提示された場面設定、話の粗筋、および描写された出来事を正確に理解し、その意義を読み取ったり、登場人物の心情に共感することができる。</li> </ul>
Listening	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 比較的聞き取りやすい身近な話題や時事問題など社会性の高い話題について、100wpm 程度で読まれる英語の文章を聞き、その概要と事実情報を正確に理解できる。</li> <li>• 英文を聞いた後に発せられる英語による質問に対し、既習の表現を用いて答えることができる。</li> <li>• 相手の発言に対し、安定して応答することができる。</li> </ul> <p>素材文を聞いて、主要な登場人物、明確に描写される場面設定、話の粗筋、および描写された出来事を理解することができる。</p>
Writing	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自身に直接的に関わる情報について、全体としてスムーズな流れがあり、文と文のつながりがある 200 語程度の文章を英語で書くことができる。</li> <li>• 書こうとする内容のポイントを明確にトピックセンテンスとして表現し、パラグラフを構成することができる。</li> <li>• 教師による指導・サポートがあれば、複数のパラグラフから構成される 200 語程度の文章を書くことができる。</li> <li>• 自分が書いた文章を自己添削することができる。</li> </ul>

## 今後の課題～IDをベースにした実践研究へ

### (1) ADDIEモデルに基づく学習到達度測定(試験)のモデル開発



(出典: 鈴木克明「eラーニング・ファンダメンタル」第2章 eラーニングの開発工程、2-5～2-9,2004 をもとに図を再作成)

### (2) 一斉実施のペーパーテストに依存しない「学習」到達度の測定 受験のない附属校ならではの評価指標を開発

→ 多面的アセスメントを可能にする「Can-do」リスト開発

【例】リーダーシップ、協調性、主体性、マネジメント… 等